

教科名	理科	科目名	理科a・ b	履修学年	中学 高校	1年	全クラス
単位数	4	使用教科書 補助教材等	啓林館 未来へ広がるサイエンス 1				
担当者	理科a: 仙洞田 陽子 理科b: 磯谷 和樹		啓林館 サイエンスワーク 1				
学習目標	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。						
評価方法							
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準	自然の事物・現象を身近なものと関連付けながら基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		自然の事物・現象について、問題を見いだし見通しをもって観察・実験などを行い、規則性や関連性、または分類の観点や基準などを見い出して表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		定期考査 実験・観察プリント やレポート		授業ノート 実験・観察に取り組む姿勢 実験・観察プリント やレポート		
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%		
授業計画							
学 期	月	理科a 学習内容・学習単元・学習到達目標等	時 間 数	評 価 区 分 1	理科 b 学習内容・学習単元・学習到達目標等	時 間 数	評 価 区 分 1
1	4	＜自然の中にあふれる生命＞ 身のまわりの生物の観察 生物のなかま分けのしかた	10	1 学 期 中 間 考 査	＜活きている地球＞ 1 章 身近な大地 1. 身近な大地の変化 2. 地域の大地の観察	9	1 学 期 中 間 考 査
	5	＜いろいろな生物とその共通点＞ 1 章 植物の特徴と分類 1. 花のつくり		1 学 期 期 末 考 査	2 章 ゆれる大地 1. ゆれの発生と伝わり方 2. ゆれの大きさ 3. 日本列島の地震		11
	6	2. 子葉、葉、根のつくり 3. 種子をつくらない植物 4. 植物の分類 2 章 動物の特徴と分類			3 章 火をふく大地 1. 火山の噴火 2. マグマの性質と火山 3. マグマからできた岩石 4. 日本列島の火山 4 章 語る大地 1. 地層のでき方 2. 地層の岩石		
	7	1. 動物の体のつくりと生活 2. 背骨のある動物	11				
	8						
	2	9	3. 背骨のない動物 4. 動物の分類 ＜身のまわりの物質＞	9	2 学 期 中 間 考 査	3. 地層・化石と大地の歴史 4. 大地の恵みと災害 ＜光・音・力による現象＞	7
10		1 章 いろいろな物質とその性質 1. 物質の区別 2. 重さ・体積と物質の区別	2 学 期 期 末 考 査		1 章 光による現象 1. 光の進み方 2. 光が通りぬけるときのようす	13	
11		2 章 いろいろな気体とその性質 1. 気体の区別 2. 身のまわりのものから発生した気体の区別 3 章 水溶液の性質		3. レンズのはたらき 2 章 音による現象 1. 音の伝わり方 2. 音の大小と高低			
12		1. 物質のとけ方 2. 濃さの表し方	13	3 章 力による現象 1. 力のはたらき			
3	1	3. 物質のとり出し方 4 章 物質のすがたとその変化 1. 物質のすがたの変化	11	学 年 末 考 査	2. 力の大きさのはかり方 3. 重さと質量 4. 力の表し方 5. 1 つの物体に2 つの力がはたらくとき	10	学 年 末 考 査
	2	2. 状態変化と温度 3. 混合物の分け方					
	3						

教科名	理科	科目名	理科a・ b	履修学年	中学 高校	2年	全クラス
単位数	4	使用教科書 補助教材等	啓林館 未来へ広がるサイエンス 2				
担当者	理科a: 加藤 学 理科b: 水庭 聡一		啓林館 サイエンスワーク 2				
学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。						
評価方法							
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準	自然の事物・現象を身近なものに関連付けながら基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		自然の事物・現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察・実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関連性などを見いだして表現しているなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		定期考査 実験・観察プリント やレポート		授業ノート 実験・観察に取り組む姿勢 実験・観察プリント やレポート		
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%		
授業計画							
学期	月	理科a 学習内容・学習単元・学習到達目標等	時間数	評価区分1	理科 b 学習内容・学習単元・学習到達目標等	時間数	評価区分1
1	4	＜化学変化と原子・分子＞ 1 章 物質の成り立ち 1. 物質を加熱した時の変化	12	1学期中間考査	＜生物の体のつくりとはたらき＞ 1 章 生物の体をつくるもの 1. 生物の体の成り立ち 2. 細胞のつくり	12	1学期中間考査
	5	2. 水溶液に電流を流した時の変化 3. 物質のもとになる粒子 4. 原子が結びついてできている粒子					
	6	2 章 物質の表し方 1. 物質をあらわす記号 2. 物質を表す式 3 章 さまざまな化学変化 1. 物質どうしが結びつく変化 2. 物質が酸素と結びつく変化 3. 酸化物から酸素を取り除く変化 4. 化学変化と熱の出入り	12	1学期期末考査			
	7						
	8						
	2	9	4 章 化学変化と物質の質量 1. 化学変化の前後での物質の質量 2. 反応する物質どうしの質量の割合 ＜電流とその利用＞ 1 章 電流の性質 1. 電流が流れる道すじ 2. 回路に流れる電流	10	2学期中間考査	3 章 動物の体のつくりとはたらき 1. 栄養分を取り入れる 2. 動物の呼吸 3. 不要な物質のゆくえ ＜地球の大気と天気の変化＞	10
10		3. 回路に加わる電圧 4. 電圧と電流の関係 5. 電流、電圧、電気抵抗の求め方 6. 電流のはたらきを表す量		1 章 地球をとり巻く大気のように 1. 大気の中ではたらく力 2. 大気のようにすを観測する			2学期期末考査
11		2 章 電流の正体 1. 静電気 2. 静電気と電流の関係	13	2 章 大気中の水の変化 1. 霧のでき方 2. 雲のでき方	13		
12				3. 空気にふくまれる水蒸気の量 3 章 天気の変化と大気の動き 1. 風がふくしくみ			
3	1	3. 電流の正体 4. 放射線の発見とその利用 3 章 電流と磁界 1. 磁界	10	学年末考査	2. 大気の動きによる天気の変化 3. 地球規模での大気の動き 4 章 大気の動きと日本の四季 1. 陸と海の間の大気の動き 2. 日本の四季の天気	10	学年末考査
	2	2. モーターの仕組み 3. 発電機のしくみ					
	3						

教科名	理科	科目名	理科a・ b	履修学年	中学 高校	3年	
単位数	4	使用教科書 補助教材等	啓林館 未来へ広がるサイエンス 3				
担当者	理科a: 市川 麻紀子 理科b: 高橋 堅真		啓林館 サイエンスワーク 3				
学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。						
評価方法							
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準	自然の事物・現象の特徴に着目しながら、基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		自然の事物・現象について、観察・実験などを行い、その結果や資料をを分析して解釈し、規則性や関連性などを見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		定期考査 実験・観察プリント やレポート		授業ノート 実験・観察に取り組む姿勢 実験・観察プリント やレポート		
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%		
授業計画							
学 期	月	理科a 学習内容・学習単元・学習到達目標等	時 間 数	評 価 区 分 1	理科 b 学習内容・学習単元・学習到達目標等	時 間 数	評 価 区 分 1
1	4	＜生命の連続性＞ 1章 生物のふえ方と成長 1. 生物のふえ方 2. 細胞のふえ方	9～11	1 学 期 中 間 考 査	＜運動とエネルギー＞ 1 章 力の合成と分解 1. 水中の物体にはたらく 力 2. 力の合成 3. 力の合成	9～12	1 学 期 中 間 考 査
	5	2章 遺伝の規則性と遺伝子 1. 親の特徴の伝わり 方 2. 遺伝のしく み			2 章 物体の運動 1. 運動の表し 方		
	6	3. 遺伝子の本体 3章 生物の種類の多様性と進化 1. 生物の共通性と 多様性	10～11	1 学 期 期 末 考 査	2. 水平面上での物体の運動 3. 斜面上の物体の運動 4. 物体間で及ぼし 合う 力	11	1 学 期 期 末 考 査
	7	2. 進化の証拠 3. 生物の移り 変わりと 進化			3 章 仕事とエネルギー 1. 仕事 2. エネルギー 3. 位置エネルギーと 運動エネルギー		
	8						
	2	9	＜宇宙を観る＞ 1 章 宇宙の天体 1. 太陽 2. 太陽系	9～11	2 学 期 中 間 考 査	4 章 多様なエネルギーとその移り 変わり 5 章 エネルギー資源とその利用 ＜化学変化とイオン＞ 1章 水溶液とイオン 1. 水溶液にすると 電流が流れる物質 2. 電解質の水溶液に電流が流れたときの変化	9～11
10		3. 宇宙の広がり 2 章 太陽と 恒星の動き 1. 太陽の動き	3. 電気を 帯びた粒子の正体				
11		2. 星座の星の動き 3 章 月と金星の動きと見え方 1. 月の動きと見え方	11～12	2 学 期 期 末 考 査	2章 電池とイオン 1. 金属のイオンへのなり やすさ 2. 電池のしく み 3. 日常生活と 電池	9～12	2 学 期 期 末 考 査
12		2. 金星の動きと見え方			答案返戻・まとめ		
3		1	＜環境＞ 1 章 自然界のつり 合い 2 章 さまざまな物質の利用と人間	12～16	学 年 末 考 査	3章 酸・アルカリと塩 1. 酸性やアルカリ 性の水溶液の性質 2. 酸性やアルカリ 性の性質を決めているもの 3. 酸性・アルカリ 性の強さ 4. 酸とアルカリを 混ぜたときの変化 5. イオンで考える 中和	10～15
2	3 章 科学技術の発展 4 章 人間と 環境 5 章 持続可能な社会をめざして						
3							